

期間限定特別展示 9月9日(土)～24日(日)

生誕 100年 浜田知明の銅版画

浜田知明は、1917(大正6)年12月23日に、熊本県上益城郡高木村(現:御船町高木)に生まれた、戦後の日本を代表する銅版画家です。東京美術学校西洋画科卒業後、第二次世界大戦のため20代の多感な青春時代を兵士として中国大陸で過ごし、復員後に軍隊での不条理な体験を元に制作した銅版画シリーズ《初年兵哀歌》によって、国内外で高い評価を得ました。

浜田の作品は、一貫して明確な主題を持っています。銅版画の制作を始めた1950年代初頭は抽象絵画の全盛期でしたが、「非人間的な軍隊の理不尽な行為と、残酷な戦争体験を絵画にすること」を目標に戦場から生還した浜田は、作品制作に当たって、主題がストレートに伝わる具象絵画を選びました。やがて、戦後10年を経た1950年代半ばからは、社会や現代文明を風刺する方向へと転換し、人間社会のゆがみや矛盾をつく作品を生み出しています。さらに、1970年代半ばから始まる、人間の心理状態をテーマにした作品では、それまでとは趣の異なるユーモラスな表現も見られるようになります。

銅版画という技法は、これらの主題を克明に表現する手段として、浜田が意図的に選択したものです。感傷を排した独特の金属的な鋭さと深い明暗の表現は、冷徹な眼差しで人間社会を見つめた主題と見事に調和しています。

当館は、平成16年に、浜田の古くからの知人であり版画コレクターでもあった、当館元館長・四藏典夫氏のコレクション78点を譲り受けたことにより、合計89点にのぼる浜田の銅版画を所蔵するに至りました。本展では、主要作《初年兵哀歌》シリーズを含む約40点により、その作品世界をご紹介します。